

1. 平成31年度(令和元年度)

全国学力・学習状況調査について

本調査の目的は、義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童・生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、さらに、そのような取組みを通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立することです。調査結果については、あくまでも児童・生徒に対する評価の一側面を示すものであり、競争や順位づけを目的とするものではありません。児童・生徒の学力の実態や、生活習慣を含めた学習状況、またそれら相互の関連を分析し、教育課題を明確にした上で、教育のあり方及び教育施策の改善を図ってまいります。特に学校現場においては、児童・生徒への指導や学習活動の改善等に役立ててまいります。

藤井寺市教育委員会では、この調査の目的に沿って、本調査に参加いたしました。結果の公表については、保護者・市民の皆様にも、学校教育及び家庭教育についての理解と協力を得ることが何よりも大切であると考え、本市・大阪府・全国を比較する形で、各教科別の平均正答率、学力の背景にもなっている質問紙調査の結果及び今回の調査を分析する中で見られる本市児童・生徒の好ましい傾向と今後の教育課題についてお示しさせていただきます。なお、学力調査結果の学校別平均正答率の公表については、序列化や過度な競争につながるおそれがあるため、これまで同様に行わないものとします。

(1) 調査の実施概要

① 実施日 平成31年4月18日(木)

② 実施学年及び対象者数

| 対象 | 藤井寺市 | | 大阪府 | | 全 国 | |
|--------|------|------|------|---------|---------|------------|
| | 学校数 | 対象者数 | 学校数 | 対象者数 | 学校数 | 対象者数 |
| 小学校6年生 | 7校 | 587人 | 990校 | 70,061人 | 19,299校 | 1,062,730人 |
| 中学校3年生 | 3校 | 510人 | 472校 | 68,618人 | 9,572校 | 1,002,814人 |

③ 実施内容

【小学校】 国語、算数、質問紙調査(児童質問紙)

【中学校】 国語、数学、英語、質問紙調査(生徒質問紙)

※新学習指導要領の趣旨を踏まえ、平成31年度より従来のA問題(知識・技能等)とB問題(活用等)という区分を見直し、知識・活用を一体的に問う調査問題に変更されました。

※英語は平成31年度初めて実施され、「聞くこと、読むこと、書くこと」の結果のみ公表されています。

(2) 問題別調査結果

小学校について

※平成 29 年度より、大阪府・藤井寺市の正答率は整数での表記となっております。

| 小 学 校 (6 年 生) 【教科別平均正答率】 | | |
|--------------------------|-------|-------|
| 教科 | 国語 | 算数 |
| 藤井寺市 | 61% | 68% |
| 大阪府 | 60% | 66% |
| 全国 | 63.8% | 66.6% |

| 小 学 校 (6 年 生) 【大阪府との平均正答率の差】 | | | | |
|------------------------------|--------|--------|--------|--------|
| 教科 | 国語 | | 算数 | |
| 平成 30 年度 | (A) -1 | (B) -1 | (A) -1 | (B) -2 |
| 令和元年度 | +1 | | +2 | |

国 語

- 「書くこと」、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の領域で、大阪府の平均正答率よりもやや上回りました。記述式の問題について、昨年度は大阪府の平均正答率よりも 1.6% 下回っていましたが、今年度は 0.2% と差が小さくなっています。また無回答率については、昨年度は大阪府より 2.3% 高かったのですが、今年度は大阪府の無回答率より 0.2% 低く、改善が見られました。
- 言語についての知識・理解・技能の観点では、大阪府の平均正答率と比べ、2.6% 上回りました。しかし、「文と文との意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書く」問題については、平均正答率が 36.6% と、府 (40.1%) や全国 (47.8%) を下回り、課題が見られました。

算 数

- 「数と計算」、「量と測定」、「数量関係」において、大阪府・全国の平均正答率と比べると、やや上回っていました。しかし、「図形」の領域 (76.2%) は、府の正答率は超えたものの、全国 (76.7%) と比べるとやや下回っていました。「図形」の領域が、他の領域と比べて低くなる傾向はここ数年続いており、継続した課題であると考えます。
- 記述式の問題について、大阪府・全国の平均正答率と比べると、やや上回っていました。特に、「場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断できる」問題では、平均正答率が 67.6% と、府 (62.1%) や全国 (62.6%) を大きく上回りました。

中学校について

※平成 29 年度より、大阪府・藤井寺市の正答率は整数での表記となっております。

| 中学校（3年生）【教科別平均正答率】 | | | |
|--------------------|-------|-------|-------|
| 教科 | 国語 | 数学 | 英語 |
| 藤井寺市 | 64% | 51% | 53% |
| 大阪府 | 70% | 58% | 56% |
| 全国 | 72.8% | 59.8% | 56.0% |

| 中学校（3年生）【大阪府との平均正答率の差】 | | | | | |
|------------------------|--------|--------|--------|--------|----|
| 教科 | 国語 | | 数学 | | 英語 |
| 平成 30 年度 | (A) -1 | (B) -2 | (A) -3 | (B) -4 | |
| 令和元年度 | -6 | | -7 | | -3 |

国語

- 記述式の問題については、府の平均正答率より 6% 下回りました。その中でも、「短歌の中から一首選び、自分の考えを書く」問題の正答率は 84.4%（無回答率 3.1%）でしたが、「話合いの流れをふまえて、自分の考えを書く」問題の正答率は 47.9%（無回答率 16.0%）、「広報誌の一部にある情報を用いて、具体例を書き加える」問題の正答率は 67.5%（無回答率 15.4%）で、話合いの話題や方向を捉えて書くことや、伝えたい事柄について根拠を明確にして書くことについて、特に課題が見られました。
- 「封筒で郵送するために、投稿先の名前と住所を書く」問題の正答率は 45.2% で、言語についての知識理解や技能について、課題が見られました。

数学

- 全体的に府の平均正答率よりも低く、特に「資料の活用」の領域については、8.9% 下回りました。記述式の問題については、府の平均正答率よりも 9% 下回り、「ヒストグラムを基に説明する」問題においては、正答率が 31.3%（無回答率 36.7%）で、資料の傾向を的確に捉え、自分が判断した理由を数学的な表現を用いて説明することに課題が見られました。
- 「関数」の領域については、平均正答率が 32.7% と、府や全国と同様に他の領域より低い結果でした。式やグラフを正しく読み取ること、さらに、問題解決の方法を数学的に説明することに、大きな課題が見られました。

英語

- 「聞くこと」の領域については、平均正答率が 65.1% で、設問によっては府や全国の平均正答率を上回るものもありました。日常的な話題について情報を正確に聞き取ったり、まとまりのある英語を聞いて英文や会話の内容を理解したりすることは、一定できていました。
- 「読むこと」「書くこと」の領域について、府・全国の平均正答率よりも低い数値となりました。記述式の問題については、府や全国とともに平均正答率は低く、「食糧問題について書かれた資料を読んで、その問題に対する自分の考えを書く」問題においては、正答率が 10.4%（無回答率 33.8%）で、話の内容や書き手の意見をとらえ、自分の考えを示すことに課題が見られました。